

1000トの合材サイロ1を備える。アスファルト合材製造時燃料に熱効率が高い液化石油ガスを使用。従来の重油に比べ二酸化炭素(CO2)排出量を15%削減し、黄酸化物の排出ゼロを目指す。プラントをシェルターで囲み、粉じんの飛散や音を防ぐなど環境負荷の削減に努めている。

追求の場での役割を果たす。小島和人社長兼最高執行責任者(COO)は「一生涯からオフサイトにするプラントフォームだ。生性向上や高品質な設備の提供の他にも現場の環境負荷軽減にも貢献できる。現工場の短縮が図れ社員の出社時間も減らせる。工程延滞のリスク回避にもつながる」と期待を示す。

以前から九州、千葉、神奈川で試験運用していた。本年度は協力会社、メーカー・代理店と連携したプレ加工・組み立て・試験の実施やICTを活用し現場への納品対応などを実施・検討。空調設備機器・配管・タクト類の標準ユニット支持架台の開発もしている。これまでは部材発注したメーカーが現場に搬入していた。部材を集

の佐藤巧社長、来賓として吉村美栄子山形県知事や井上貴至山形市副市長らが出席した。吉村知事は「持続可能な社会と建設産業の新しい3Kを実現し、県の発展を支えてほしい」と期待。大成ロテックの西田社長は「山形市の標語である『山形らしさが輝くまち』づくりに貢献するとともに、より質の高いサービスを提供しお客さまの要望に応えたい」と決意を述べた。

約することで、納品遅れなどによる工期遅延を防ぐ。T-Baseを首都圏に構えた理由として流通を挙げる。「鉄道貨物で運ぶことで可能な限り、安定的に高品質な設備やユニットを提供できる」(小島社長兼COO)。同社は、T-Baseを地方での産業空調の大型工事現場でも展開したい考え。

### 中期計画の投資減額

浅沼組は18日、4月に発表した2021年度から3カ年を対象とする中期経営計画の資金投入計画や株主還元方針を修正すると発表した。シンガポールの建設会社、エバーグリーン・エンジニアリング・コンストラクションの子会社化や、コンセクション(公共施設等運営権)事業推進投資などの見直しで、計80億円としていた技術開発・ICT関連投資と新領域関連投資を計63億円に減額する。株主還元方針は50%以上としていた連結配当性向を70%以上に引き上げる。5月14日に発表した22年3月期の配当予想も1株当たり260円を363円に引き上げる。

更による工期短縮(西日支社)▽ニューマチックポンプ基礎工法の沈下制御確保に関する工夫(中日支社)▽都市部における抗の施工管理(東日本支社)▽山岳国アータンにおける法面施工(海外支店)〈建築〉UB学校5作業における外張り断熱工法の特徴(海外支店)▽体育館における球面鉄骨屋根の設計と外装覆層ルーフの施工(東日本支社)▽次世代に継承するレガシーの建設(中日本支社)▽合構造建築における仮設(西日本支社)〈本社技術開発部〉建設現場へのMR技術の導入▽隔隣場を可能にする通信環境整備。

シンガポールのメンテエ社を子会社化。浅沼組は18日、主にメンテナンスイ事を請け負うシンガポールの建設会社、エバーグリーン・エンジニアリング・コンストラクションの株式を取得し、子会社化すると発表した。契約締結日は12月10日を予定。2022年1月上旬と、4月の2回に分けて株式の譲渡を実行する。浅沼組は21年度から3カ年の中期経営計画で、東南アジア諸国連合(ASEAN)地域でのリニューアル活動の強化を重点項目の一つに位置付けている。子会社化は取り組みの一環になる。エバーグリーン社の設立は00年。資本金は約3億69百万円。

# 「注目の工法」

建設分野を取り巻く諸課題の解決を図るためにはICTやDX化による効率化、安全安心に関する技術、建設コストの削減に関する技術、生態系の保全・生息空間創造に関する技術及びリサイクル材の活用技術等、有用な新技術、新工法、新製品を積極的に活用していくことが重要です。そこで読者にとって注目度の高いテーマを抽出して、そこに関わる製品や技術などを紹介します。

## 小規模な溝工事での労働災害を防止する「スピードガード」

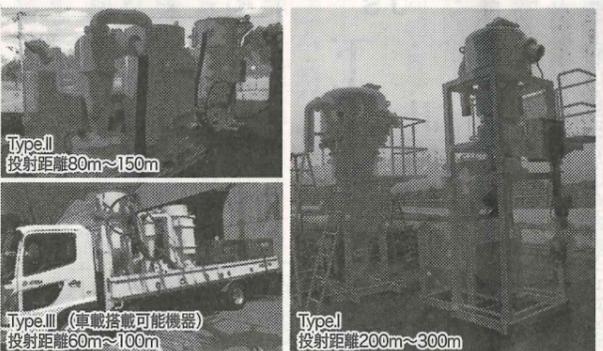


- 深さ1.5m未満の掘削溝作業に適合  
土止め設置義務がない深さ1.5m未満の掘削溝で、作業者の被災防止を目的としています。
- スピーディーな安全対策  
小規模な掘削溝内での土壁の崩壊に際し、効率的かつ経済的に作業者の生存空間を確保します。
- 軽量、小型な設計  
簡単に折り畳むことができ分解も可能なため、小スペースでの収納や運搬が容易な製品。

溝掘削工事では土砂崩壊による労働災害が多発していたが「土止め先行工法」などの普及により、掘削深さ1.5m以上の死傷災害は大幅に減少した。しかし、1.5m未満では依然多く発生している。そこで日本スピードショア(独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所は、小規模な溝工事での労働災害防止に焦点を当てた「スピードガード」を開発した。

土止めではなく「土砂遮断」という新技術  
スピードガードは、「土止め」ではなく「土砂遮断」という新たな発想から生まれた技術で、崩壊した際に作業者の生存空間を確保するものである。構成は「Xフレーム」と「受圧シート」とシンプルなので、軽量コンパクト、折りたたみ運搬が容易。Xフレームは「組のアルミ合金による矩形骨組を互いの中心から下方にやや偏心した位置で回転可能に結合させることで、溝内に吊り下ろしたフレームは重力によって半自動的に開口する組立不要な機構を備える。Xフレームの側面に設置した高強度な受圧シートに崩土が衝突すると、その反作用でフレームは外側に開こうとするため、切梁が無くても生存空間を確保する構造となっている。また、土止め支保工のように掘削した溝壁のすべてを補強するのではなく、作業者周辺のみを保護しつつ移動可能なものとすることで効率的な安全対策を実現する。

## 安全かつ高効率で廃棄物を大幅削減!!



NETIS登録番号: QS-150032-VE

エアプラスチック(加圧式)工法などに代わる新しい「循環式ハイブリッドプラスチックシステム工法」は、橋梁補修補強工事において鋼構造物の素地調整やコンクリート劣化部のチッピングを行い、金属系の研削材を回収再利用する循環式機能付プラスチックである。

様々な場所の施工に  
対応可能な新工法  
この新しい工法では研削材の循環式機能を付加したことにより、産業廃棄物の排出量を低減できるため、経済性の向上および環境負荷低減が期待できるほか、研削材と塗膜を完全分離させて鉛やPCB等含有塗膜のみを処理することが可能。従来プラスチック機で

は難易度が高い作業が多く、熟練工に頼る部分が多かったが、電子制御盤により誰でも簡単に操作が可能であり、安全性が高く特殊作業員の人数削減にもつながる。

さらに現場に応じて大型機から小型機まで5タイプを取り揃えており、施工条件や現場条件によって機種を選定できるため施工性の向上が期待できる。橋梁はもちろん機械の設置困難な歩道橋・支保の施工にも対応し、車載型プラスチックの場合は移動性に優れており設置スペースに制約がある現場や点在する現場に有効である。また同時回収が可能のため、飛散防護が困難な場所でもバキューム機能で施工可能だ。

## シームレスで強靭な防水塗膜を形成する工法



S-QS工法は超速硬化ポリウレタンポリウレタン樹脂吹付塗膜材料をコンクリート構造物の表面に塗布することにより、水分、塩分、炭酸ガス等のコンクリート劣化因子を遮断する表面被覆材。優れた伸び率と強度により下地の亀裂に対して追随性の高い材料なので、現在までに道路・鉄道その他重要構造物の地上、地下における表面被覆工法として幅広く認知され、国内外で普及している。

均一かつ高品質な  
防水塗膜物性を実現  
S-QS防水材は、2液型で超速に硬化するポリウレタン・ポリウレタン系材料を特殊吹付機械システムにより吹付施工すると塗布後、ダレ落ちることなくシームレスに数十秒で成膜する。外気温などの作業環境に左右されることなく、均一で高品質な塗膜物性を実現し、平面以外の立面、天井面や曲面部位も施工可能。大幅な工事の合理化と工期の短縮ができ、自動監視システム搭載の吹付マシンは定量材料が供給され、異常が発生した場合は自動的に停止される。水密性試験によれば、通常の条件下で水深100m相当、砕石転圧後の条件下で水深50m相当の耐水性性能を持ち、十分な強度、伸び、接着性、亀裂抵抗性を有している。また十分な耐候性、耐薬品性、耐熱性、耐低温性および耐海水性が認められており、有害物質の溶出がなく安全性も高い。同工法は、土木研究センターの建設技術審査証明や沿岸技術センターの評価証を取得している。

**SQS** <https://sqs-me.com>  
E-mail: info@sqs-me.com  
TEL: 03-6811-0980  
SQS工法協会  
SQS Association

一社) 循環式ハイブリッドプラスチックシステム工法協会  
<https://haibrid.biz>  
〒458-0915 愛知県名古屋市長区野末町1411番地 TEL: 052-602-8006

**日本スピードショア株式会社**  
<https://speedshore.co.jp>